

令和8年（2026年）1月22日外部評価実施  
千里地域包括支援センター（北東部圏域）

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

#### 【圏域の人口等】 令和7年12月1日現在

圏域人口：65,152人（前年12月1日時点 64,823人）  
高齢者人口：16,374人（前年12月1日時点 16,311人）  
高齢化率：25.13%（前年12月1日時点 25.16%）

#### 【圏域の地域特性】

千里圏域は、豊中市の北東部に位置し、吹田市にまたがる千里ニュータウンとして万博の頃に開発された校区と、400年以上の歴史を持つ校区もある圏域となっています。ニュータウンは、還暦を超え、住民の高齢化と新住民への入れ替わりや老朽化した街の再整備、5階建て集合住宅が高層化住宅へ、また、千里中央地区活性化計画も進行中です。緑も多く整備された景観で交通の便も良い千里に愛着を持ち、住み続けたいと考える住民は多くいます。丘陵を開拓しており、坂道や階段が多いこと、建て替えによる景観や生活の変化や重装備なつくりが、高齢者の暮らしに支障をきたす要因となる場合があります。

#### 【医療・介護資源】

圏域内には、急性期病院、回復期病院があり、市内に限らず、多くの住民を機能ごとに受け入れています。近隣センターや個人クリニックの廃止医療機関も見られますが、新たなクリニックの参入があり充足できています。また、訪問看護ステーションも拡充され、より身近な医療の提供が可能となっています。介護事業所数は、市内でも少ない圏域となっていますが、豊中市全般、箕面市、吹田市など隣接している事業所からの支援も受けやすい環境となっています。

## センターの取組方針や特徴

### 【センターの運営方針】

- ・豊中市地域包括支援センター運営基本方針に沿って、事業計画を立て取り組みます。
- ・「地域包括ケアシステムの構築」をめざし、職員のスキルアップを図り、ネットワーク構築や住民主体の活動をサポートしていきます。

### 【特に力を入れて活動している点】

「地域包括ケアシステムの構築」の実現に向けて

- ・地域の見守りや支えあいを拡充していくために、支える側、支えられる側という関係性から、ともに支えあうという意識変容に働きかけます。関係機関に限らず企業や店舗等にも広く出向き、地域支援事業や協力体制について声をかけ、年齢や障害などの線引きのない多様なあり方を受入れる関係性を模索し、点を増やしながら紡ぎ続けています。
- ・認知症高齢者の支援体制の構築のため、認知症サポーター養成講座の実施への協力、カフェの開設支援、新しい認知症観を意識しながら専門職として継続支援を行います。認知症サポート医のみならず、地域の医療機関、関係機関、住民とも協働し、必要な医療、介護、福祉、地域へつないでいきます。
- ・介護予防、セルフケアの取り組みの充実に向け、健康測定会の定着を図り、更に、専門職の地域へ向けた支援拡大について取り組んでいきます。
- ・様々な状況下でも活動の継続ができるようBCP更新を年に一度、継続します。

### 【活動の中での課題やその解決策】

課題)意思決定支援困難となる前、早期からの啓発や支援の取り組みが普及していません。

解決策)容易に書き込みやすい、聞き取りやすい、ACPのきっかけ作りとなるよう冊子「わたしの覚書」を専門職等の助言をもらいながら作成しました。今年度、参画しているACPスキルアップWGでも、同様な「わたしと」が完成予定となっており、早期からの意思決定支援の啓発に取り組みます。

## 総評

### 【特徴的な取組内容】

- ① 地域の事業者やボランティアとの協働で、介護予防の取組みが展開されています。参画する事業者やボランティアが地域住民とともに楽しめる場として形成されています。
- ② 介護予防や認知症啓発のいずれにおいても、地域で活躍しながら今を生きていくこと、これからも生きていくことを大切にしており、その理念に沿った研修やイベント等を実施しています。

### 【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 今年度作成されたACPの冊子を通じて、早期の意思決定支援にかかる取組みの普及と拡充に期待します。